

研究室会議三たび、夏学期佳境

主題探るM1、思考磨くM2

text_ishii photo_bannai

学期末の研究発表（ジュリー）を来月に控え、各院生は個人研究にも余念がない。6月は回を重ねることは4度、プレゼンターが一巡し、発表は2周目に突入した。M1陣には初の洗礼、M2陣は土台固め着々と。今月後半期の研究室会議の熱いディスカッションの様をお届けしたい。

第4回研究室会議

6/15(木) 16:00~18:00 8階研究室

喫留学を上手く研究に結び付けたい竹山、相変わらずのレジュメ量で他を圧倒する後藤、という両個性派に加え、本会議ではM1陣が初お目見え。卒研を発展させた題材を無難に料理するも、教授陣から「『都市に対する問題意識と情熱』こそ良い研究の第一歩。今一度、自分の明らかにしたいことを問い直すべき」とさっそくの鋭い指摘が。今後の積極性に期待。

竹山奈未「社寺斜面緑地の空間特性とその応用可能性」「都市における良い緑地とは何かを考える、東京、ウィーンを例に」
後藤健太郎「江戸後期から戦前までの都市の全体像に関する考察 都市景観図を通して」 石井宏典「パブリックアートのマネジメントに関する研究」
伊藤雅人「都市内中小河川について研究テーマの模索」 奥田紘子「江戸期大名庭園の継承過程に関する研究」
塩澤諒子「都市の建築と空地が形成する公私境界に関する研究」



手書きで「昨日までのテーマ」と上書きされた後藤院生のレジュメ。ギリギリまでテーマを考え抜いた、奮闘の証だ。

第5回研究室会議

6/20(金) 11:00~13:00 列品館大会議室

雰囲気一転、大会議室で開かれた研究室会議。マイク使用の本格的な舞台にも臆せず、残りのM1陣が今後究めたいテーマについて発表を行った。研究の焦点の絞り方に関し厳しい指摘もあったが、総じては笑いも飛び交う和やかなムードであった。

筒井直央「米軍接收地とその返還跡地利用に関して」
Fadli bin Zubi "Preserving and Enhancing Town Character and Identity Through Urban Design"
W・ボンサン「アジア都市の植民地建築における空間利用に関する研究」「自由が丘の良好な市街地イメージを形成する要素に関する研究」
横田俊介「『まち固有の風土・歴史・気質・習慣』を基盤としたまちづくりのガバナンスを考える」
吉田拓「旧宿町における路地空間の特性に関する研究 東京都北品川地区におけるケーススタディ」



列品館に両教授そり踏み

第6回研究室会議

6/29(木) 16:00~18:00 8階研究室

M2・修論前期提出者は今まさに天王山、研究生生活の成果を結晶化し、輝かす時である。本会議は最終チェックポイント、各員の充実した調査成果に一唸りあがるが、「より明瞭な結論、そこに至る快刀乱麻の構成を望む」と高みを期待する声も。ラストスタートなるか。

金宗範「韓国式 中高層集合住宅団地沿いの街路活性化に関する研究」
早坂勝一「既存建造物の地域特性を生かした活用に関する研究 横浜市 北仲通北地区における歴史的建造物の暫定利用を事例として」
リー・クウィン・チー "Research on Traditional Village Center and Its Transformation Process -A case study of Tu Liem Suburban District"



チーM2 に熱血板書指導の野原卓助手

阿部D4帰国インタビュー
充実のスペイン留学終え抱負も新たに

阿

阿部大輔D4は、D2の夏から3年間、バルセロナのカタルーニャ工科大学大学院に留学、バルセロナにおける歴史的地区の保全戦略を研究。6月28日、成田空港から直接研究室に凱旋報告に訪れたところをインタビュー。時差ボケ脱けきらぬ中ながら、留学生活について大いに語ってくれた。

左から塩澤（インタビュアー）・阿部D4・野原助手



●●● 大学生活

あちらの学期開講前に、ひと月語学学校に通ったけれども、それでも講義に慣れるには9ヶ月かかったね。大抵、レジュメ無しでしゃべる一方の講義だったので、大変だった。また、バルセロナを少しでも離れると、カタルーニャ語の方が多く話されるので、こちらの切り替えも難しかった。

こちらでいう「研究室」はない。院生同士のつながりやキャンパス内での「居場所」は、あまりないね。研究は、図書館や資料室で資料を借りて、主に自宅で読む。教授にアポをとって、教授室に向いて相談しに行く。孤独なときはビールを飲む。

スペインでは学部での5年の課程を終えると、建築士<arquitecto>として認められる。バルセロナは、けっこう景気が良いので、職には困らない。その代わり卒業の審査は厳しく、卒業設計は2年がかり、落とされる学生も多い。大学院生は一度社会に出た人、働きながら学ぶ人が多いため、平均年齢は日本より高い。学費はタダ同然に安いので、在籍年数も長め。

●●● 都市バルセロナ

バルセロナの魅力は、夕暮れどきに凝縮している。仕事を終えてまちへと繰り出す人々、戸外でたむろする人々が発する、解放感と昂揚感。街並みや建物自体は、パリのように特別に美しいというわけではないのだけれど、「ああ、都市に居るんだな」という実感がある。こうした都市の上手い「使い方」を、日本も見習えるといいなと思った。治安？悪いね（笑）。

●●● 抱負・留学する人へのアドバイス

スペイン都市計画の研究は、ようやく緒についた、ということ。まずは、5年間の研究の成果をまとめることが目標。これからは、留学する人もいっそう増えていくと思うが、もし、論文・研究に結び付けたいと考えるなら、周知な下準備が必要。日本と違う環境で生活することはそれなりに「楽しい」ので、とすると、それだけで終わりがちになってしまうから。

interview_shiozawa, bannai

左/夜のランプラス通りの賑わい
右/夕暮れ時の旧市街のカフェ



柏の葉だより vol.1

柏プロジェクト奮闘中&北沢先生誕生日

平林 直(空間計画研究室 M1)

本

年度より発足した新領域北沢研究室(空間計画研究室)。4名の希望に溢れる学生が集まりました。そして6月には早くも柏プロジェクトが本格的にスタート。T X 柏の葉キャンパス駅周辺から東大柏キャンパスを含めた広域計画を千葉県、柏市、千葉大、そして東大が連携し練り上げます。この夏休みには北沢研が主体となってラフプランを一案まとめる予定。行政の方々と直に話し合いながら一つの街の都市デザインの初期段階に実際に参加できる!という何とも魅力的なプロジェクトなのに、現在人手が足りません。このプロジェクトの魅力を考えれば、柏は全く遠くありません。本郷の方々の柏プロジェクト参加に期待!



誕生日のケーキの前に満面の笑みの北沢教授

ところで、6月24日(土)は北沢先生の誕生日でした。私たち学生は日ごろのお礼の気持ちを精一杯込め、23日にささやかな誕生日会を開きました。砂川イベント部長の厳選したタルトケーキと、ささやかなプレゼントの前に先生は終始笑顔で応じて下さいました。北沢先生、これからも我々学生を優しく、厳しく見守って下さい。

ラウンドテーブルセッション

「都市とランドマークの記憶 ニューヨークと東京」

6

月15日情報学環・学際情報学府企画でセッションが行われ、パネリストとして西村幸夫教授はじめバーバラリー・ダイヤモンドSTEIN=スピールヴォーゲル氏(ニューヨーク市歴史的建造物保存センター所長)、養原 敬氏(都市プランナー、養原計画事務所所長、元建設省課長)アレックス・カー氏(作家、日本研究家)という錚々たるメンバーが招かれた。NYと東京におけるランドマークを、記憶というキーワードで紐解く。

西村教授は「東京丸の内の景観問題」を取り上げ、その経緯や成り立ちを短い時間の中でありながら解説、多くの問題を提起した。

他、多くの時事的問題も取り上げられ、白熱した議論が交わされた。会場内は立ち見も含め聴衆であふれかえる。その盛り上がりぶりに当初の予定よりも時間は延長され、大盛況のうちに幕は閉じた。

都市への視点はまたさらに膨らむばかりである。

text_shiozawa photo_tsutsui



歓迎の宴 for 4年生

新たな顔ぶれ初対面

梅

雨の雨で空気は湿っておりましたが、4年生を迎え入れる歓迎会は賑やかに、そして新たな勢いを含んで盛大に行われました。6月15日の研究室会議後、場所は本郷キャンパスから程近い居酒屋「明憩」。まだ研究室のメンバーとは顔合わせがすんでおらず、少し緊張した面持ちで4年生は順番にそれぞれ自己紹介。中には「北沢先生がだいすきです」宣言!で熱く語る学生も。4年生は講義と演習をこなしつつ、卒業研究も動きだし毎日忙しくも充実した様子。



西村教授を囲んでの歓談は尽きることを知らない

text_shiozawa photo_tsutsui

宴会も終盤になれば緊張はほぐれ、研究室メンバーとの会話も弾みます。大学院の生活にも質問が相次ぎました。やはり、お酒が入ることで、普段とはまた違った雰囲気、知られざるその人の本音や、なにより都市研究への強い情熱を感じられるのがこのような飲み会の醍醐味であります。

編集後記

W杯の季節。日本の活躍の予感に胸躍らせた後、あの惨い敗戦に激怒、思わずマウスを投げつけてPCのディスプレイを粉砕。あわてて我にかえれば、x万円の損害と五指に余る仕事が残っていた...そんな悲しくもコミカルな体験、皆さんはお持ちでしょうか。そう、気づけばプロジェクト再点火の時期。そしてジュリーとレポートの時期でもありますね。低スベックの自分、早くもあちこち軋みを感じますが、デザ研の皆さんの熱意をエネルギーと借りて、研究にコンペにマガジン執筆に、ぐわっと邁進したいと思います。

text_ishii

歓迎の宴 for 金夫妻

あらためてお幸せに、と

江口 久美(M2)

夏

の気配が見え始めた6月21日水曜日夜刻、人々の気配もざわめく渋谷で、金宗範M2(金兄・キムにい)と奥さんを囲む歓迎会が、和やかに営まれました。幹事は、M2イルジと江口。集まったのは、デザ研院生・総勢約20名。とても辛い韓国の鳥料理屋、ブルダックにて、会はスタートしました。少し遅れて到着した金夫妻と共に、乾杯。一同、奥さん(ウネさん)の美しさに思わずため息。初めは、少し緊張気味だったウネさんも、時間が進むにつれて、少しリラックスしていただけたようでした。日本は好きですか?との質問に、はいと答えていただけて、うれしかったです。



なかには、後藤M1が、得意の韓国語を披露し、一同感心するシーンも。金兄が、ウネさんを優しく気遣う姿が印象的でした。終止、幸せそうな金夫妻に、こちらまで幸せを分けていただいたようです。綾瀬にて新婚生活を始めたお二人、生涯幸せに暮らしてください。金兄には、修論という壁がありますが、愛の力で乗り越えられるでしょう。

連載・留学生お宅訪問

vol.2 ファズリ

各

国の留学生・研究者が集う江東区青海の東京国際交流館。その一角にファズリのお宅があります。潮風を感じる渡り廊下を進んだ先、玄関をくぐると、美しい奥さんと3人の愛らしいお子さん達が僕を出迎えてくださいました。

お宅の第一印象はとにかく広くて綺麗。その開放的な部屋にいつそ華を添えるカラフルなインテリアには大いなるセンスを感じます。書斎の正面の窓からは一面の東京湾が望め、仕事が2倍はかどりそう。少し歩けばお台場のエンジョイスポットも。この素晴らしい生活環境は何より子育てに良かったと、ファズリは話してくれました。

そう、彼は立派に地に足をつけた社会人であり、家族の尊敬を受けられる素晴らしいお父さんなのです!



- 船の科学館そば、国際交流館入口
- センター内、日本文化を学べるブース
- 東京湾を一望、ファズリの書斎
- おいしい、おいしいマレー料理

右/明るくて広いリビング。100㎡の広さなら5人暮らしでもかなりゆったり。



高校卒業後、国費でイギリスで学び(すごいエリート!),今また日本へと、まさにユーラシアをまたにける国際経験豊富なファズリ。国土の均等な発展、歴史的遺産の保存に対する意識など、日本の都市計画には学ぶ所が多いと褒めてもらった一方で、実際に日本で生活する難しさも社会人の視点から話してくれました。

お子さんの教育、物価高、イスラムの戒律の遵守...。特に日本はものごとが全て「日本語」で解決してしまうので、生活・研究などあらゆる情報を得るのが難しいそうです。うーん、確かにそうかもしれませぬ。英語の下手な僕ですが、少なくとも研究室の中ではこういう不便がないようにサポートしたいものです。

インタビューの後は、奥さん特製のマレー料理・ミーフン(ビーフン)とココナッツチキンカレーをご馳走になりました。美味しい手料理と食事時の会話は一人暮らしの身には嬉しく、楽しいひと時を過ごすことができました。

将来の一番の夢は家族の幸せと話してくれたファズリ。「皆さんにいつまでも幸あれ」と僕も願うかぎりです。 text_ishii

